

平成26年度

## 奈良県森林・林業・木材産業の概要



県の木 すぎ

## 奈良県農林部



奈良 山と森林の月間

奈良県では、森林と林業・木材産業に関する取り組みの基礎となる「奈良県森林づくり並びに林業及び木材産業振興条例(H22.4.1施行)」と「同指針(H22.12.10公表)」を定めました。これにより、森林を重視すべき機能等に応じて「木材生産林」と「環境保全林」に区分し、県産材の生産と利用を推進するとともに、森林の有する多面的機能の持続的な発揮・向上に努めています。

また、7月の第3月曜日を「奈良県山の日・川の日」と定めるとともに、夏休み期間を「山と森林の月間」として、県内各地で様々な森林に親しむイベントを開催し、県民参加による森づくりを進めています。

# I 奈良県森林・林業・木材産業の現況

## 1. 森林の位置

本県の森林は、日本一の多雨地帯である紀伊半島のほぼ中央に位置し、近畿の主要河川の重要な水源地帯となっている。流域単位では北部の大和川・淀川水系、中部の紀の川水系、南部の新宮川・北山川水系に分かれる。

## 2. 森林資源の内容

森林面積は284千ha、林野率は県土面積369千haの77%で、うち民有林が271千haと95%を占める。

## 3. 民有林森林資源の全国平均との対比

1ha当たりの森林蓄積量は270m<sup>3</sup>で全国第12位、人工林率は62%で全国第7位、林業産出額は31億円と全国第31位となっている。

## 4. 吉野林業

吉野川上流地域(川上村、東吉野村、黒滝村)は「吉野林業地域」と呼ばれ、集約的施業によるわが国有数の優良材生産地である。



東吉野村小 (明治~大正)

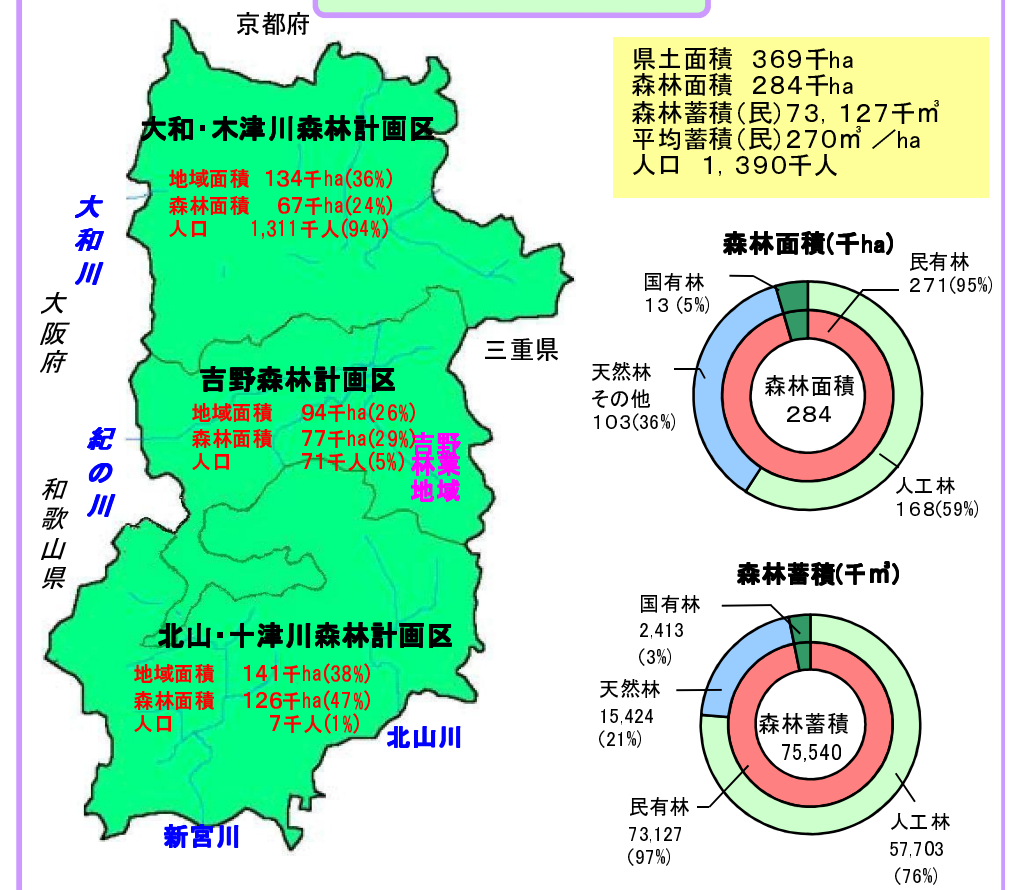


川上村白川渡

### 吉野林業の特徴

- ・日本最古の造林(1500年頃) 大阪城、伏見桃山城の普請材
- ・密植多間伐・長伐期の育林技術
- ・生産材は年輪幅が狭く均一 幹は通直・完満・真円

## 奈良県の森林と人口



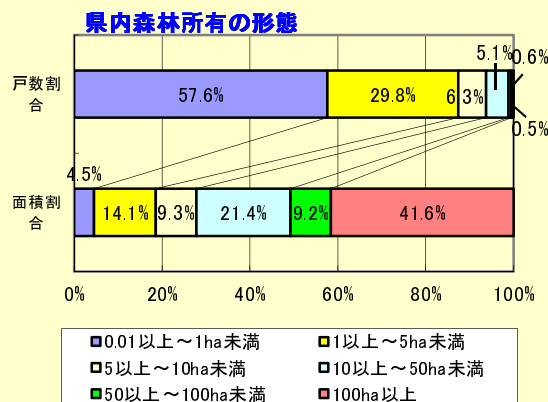
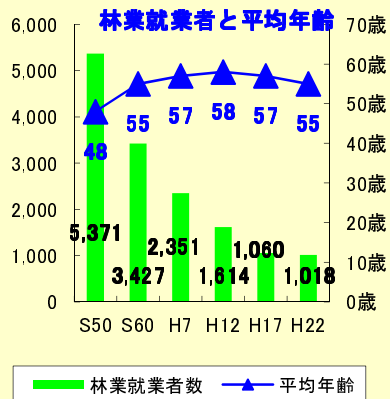
### 民有林森林資源等の内容

| 区分       | 奈良県                   | 全国平均                  | 順位  |
|----------|-----------------------|-----------------------|-----|
| 森林面積     | 271千ha                | 370千ha                | 28位 |
| 森林蓄積     | 73,127千m <sup>3</sup> | 79,759千m <sup>3</sup> | 23位 |
| 1ha当たり蓄積 | 270m <sup>3</sup>     | 215m <sup>3</sup>     | 12位 |
| 人工林面積    | 168千ha                | 169千ha                | 22位 |
| 人工林率     | 62%                   | 46%                   | 7位  |
| 林業産出額    | 31億円                  | 83億円                  | 31位 |
| 木材生産額    | 26億円                  | 41億円                  | 23位 |
| 特用林産物生産額 | 5億円                   | 42億円                  | 37位 |

(参考) ○奈良県:平成26年4月1日現在の数値 ○全国平均、順位:平成24年3月31日現在の数値  
 (注)林業産出額は平成24年の数値)

### 5. 林業就業者、山林所有規模

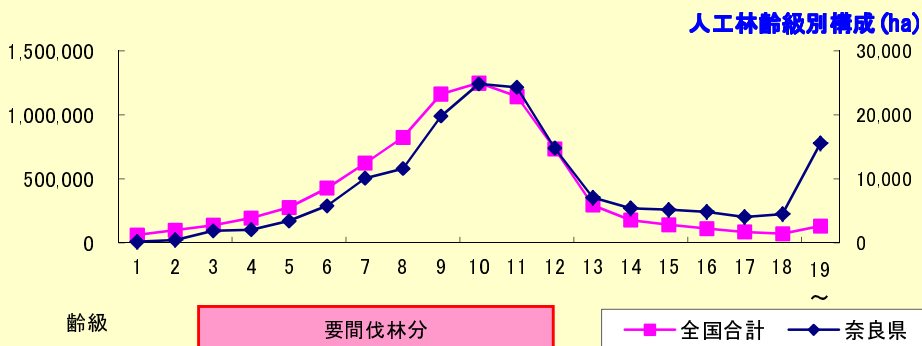
山村地域の過疎化や林業生産活動の低迷等により、林業就業者の減少と高齢化が進行している。  
戸数割合では小規模経営(5ha未満)の林家が約9割を占めているが、面積割合では50ha以上の大面積経営林家が約5割を占めている。



### 6. 人工林(針葉樹)の林齢構成

戦後造林された林分が多く、除間伐等の保育を必要としている。特に3齢級～12齢級の要間伐林分は約70%を占めている。

(地域森林計画対象民有林)



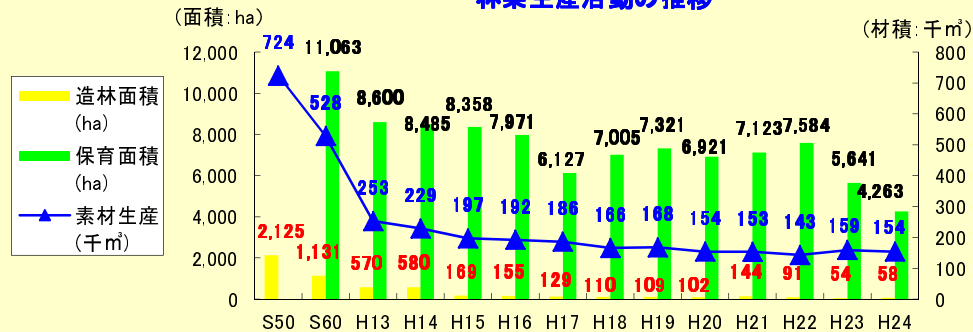
#### ■奈良県の特徴■

95年生(19年齢級)以上の森林は、約1万6千ha存在しており、全国平均と比べて高い割合

### 7. 林業生産活動

木材価格の低下により生産コストに見合う収益が見込めないことから、素材生産・造林・保育などの林業生産活動が減退している。

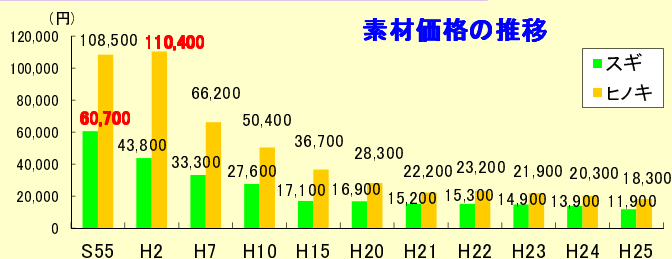
#### 林業生産活動の推移



### 8. 木材価格

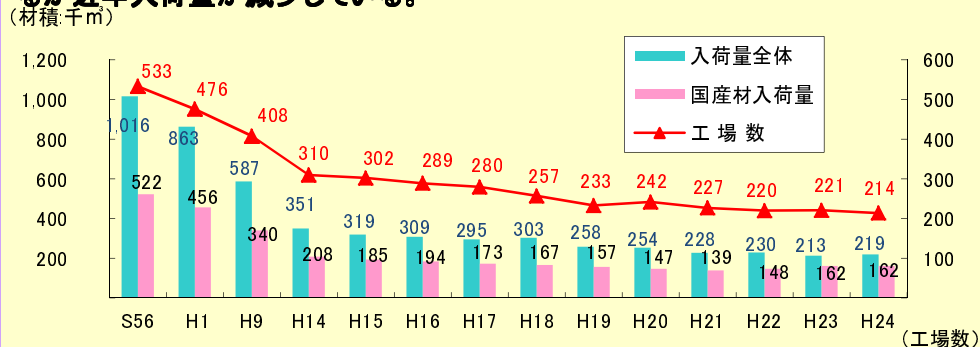
木材価格は、スギの昭和55年、ヒノキの平成2年をピークに、以降は総じて下降傾向が続き低迷している。

\*中丸太 径14~22cm  
長さ3.65~4mのm3当たり価格



### 9. 木材産業

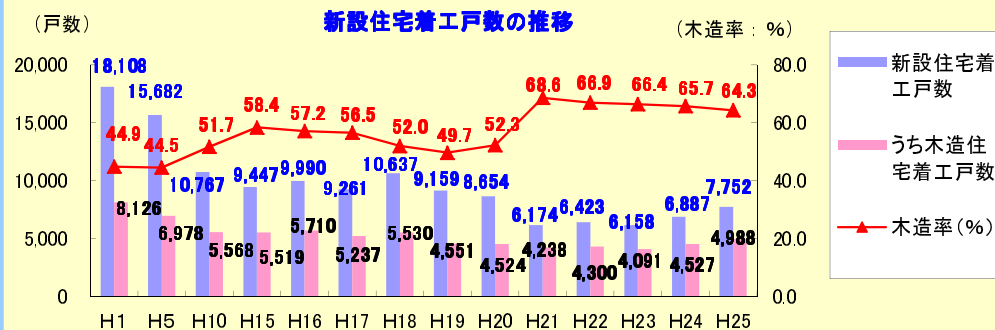
吉野町、桜井市を中心に製材、集成材工場等の二大木材団地を形成し、国産材を中心に優良材を供給している。木材産業は地域経済で重要な位置を占めているが近年入荷量が減少している。



## II 奈良県森林・林業・木材産業の課題

### 1. 県産材の安定供給体制の構築

新設住宅着工戸数の減少や住宅工法の多様化、木材価格の低迷等により、高級材を中心とした本県の素材生産量は減少傾向が継続している。今後、ニーズに対応した木材を提供するため、川上・川下が連携した県産材の安定供給体制の構築を早急に図ることが課題である。



### 2. 森林環境の保全

木材価格の低迷、林業就業者の減少や、里山における薪炭材の利用減少などから、森林の保育が十分に行われなくなっている。森林の有する多面的機能の持続的な発揮を図るうえで、必要な保育が行われず放置された森林の整備が課題である。加えて、森林環境を保全する県民意識の醸成が必要である。

森林環境税を活用した取り組み (平成18~24年度累計)

|    | 施業放置林整備 | 里山整備  |
|----|---------|-------|
| 実績 | 5,773ha | 142箇所 |

| 森林環境教育 (参加者数) | 指導者養成研修 | 体験学習    |
|---------------|---------|---------|
|               | 1,120人  | 19,294人 |

### 3. 森林組合の育成強化

本県の森林組合は森林所有者の組合加入率は全国平均であるものの、作業員数や1森林組合当たりの総収益などについては全国平均を大きく下回っている。そのため、森林組合が地域における森林経営の中核的な担い手として、施業の集約化等県産材の安定供給に取り組むことが求められる。

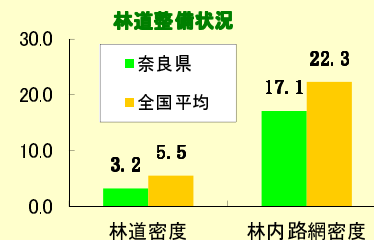
(奈良県: 24年度、全国平均: 23年度)

|                | 奈良県    | 全国平均   |
|----------------|--------|--------|
| 森林所有者組合加入率     | 35%    | 46%    |
| 山林作業員数(150日以上) | 66人    | 316人   |
| 1森林組合当たりの総収益   | 110百万円 | 362百万円 |

### 4. 林業生産基盤の整備

本県は地形が急峻なこともあり、林道密度・林内路網密度は全国平均を下まわっている。壊れにくい作業道を中心とした林内路網整備が課題である。

(平成24年度末実績)  
\*ha当たり延長(m/ha)  
(単線軌道除く)



### 5. 林業機械化の推進と担い手の育成

林業従事者の減少と高齢化に対応し、林内路網整備と林業機械導入による低コスト木材生産の推進と、その担い手の育成・確保が必要である。

プロセッサ 2台 タワーヤーダ 2台  
ハーベスタ 1台 フォワーダ 2台  
スイングヤーダ 2台



林業機械化推進センターの高性能林業機械

作業道初級研修 4名  
林業架線技術者養成研修 3名  
フォレストワーカー研修(1年目) 13名  
フォレストワーカー研修(2年目) 7名  
フォレストワーカー研修(3年目) 9名  
フォレストマネージャー研修 1名

林業機械化推進センターの研修生(H25年度)

### 6. 間伐の推進と間伐材利用の推進

木材価格の低迷などから間伐が遅れており、間伐の適切な実施による健全な森林造成と間伐材の利用促進が課題である。

間伐実施面積 (ha)

